

	課題分析	授業改善策
国語	情報を正確に読み取る力と基礎学力（漢字や語彙）の力が低い生徒が多い。また、自分の考えを文字に起こすということに抵抗がある生徒が多いため、文章表現が苦手である。	語彙や漢字の学習の時間を増やし、小テストなどで確認を行う。文章の要約や短文作成などの機会を多く設ける。生徒自らが考えて書く学習活動を多く取り入れ、表現の楽しさを学ばせる。
社会	基本的・基礎的な知識の定着に課題がある生徒の割合が多い。また、文章で答えたり、発表したりする際、自分の考えを表現する力に課題がある。	知識の定着に関しては、eライブラリーの活用等、反復学習を充実させる。表現力に関しては、文章で書く機会や発表の機会を増やし、表現力向上の充実を図る。
数学	生徒間で習熟度の差が大きい。そのためコースごとに生徒の実態に合わせて、各学年で習熟度別授業を行っている。生徒のつまずきを感じた際は、その都度復習するなどコースごとに適切な指導を継続していく必要がある。	単元ごとにテストを実施し、学習内容の確実な定着を図る。また、レポートやポートフォリオなどから生徒の理解度を都度把握する。それを基に各習熟度別のクラスにおいて、教科書をベースにしながらか実態に応じた教材を準備して指導していく必要がある。
理科	生徒間での既習事項の定着度に差があり、ケアレスミスが目立つ。観察・実験結果を統合的に考察する力や思考力が不足している。思考力を必要とする活動に取り組むことをあきらめる生徒がいる。学習方法の調整を考える生徒が少ない。	I C T機器を活用し、章末テストを増やすことで演習の機会を増加させ、知識の定着度を向上させる。問題のポイントを明示し、実験結果や考察に取り組む前に十分な準備を促す。教え合いの活動を導入し、生徒間の理解の差を縮める。定期的に学習方法を指導し、生徒が自主的に学習を調整できるようサポートする。
音楽	音楽を多角的、主体的に感じ取り、表現しようとすることや、言葉で表現することに課題がある。また、発声の原理を明確に理解させて実践させることに課題がある。	あらゆる分野の「良い音楽・良い演奏」を聴かせて、生徒の歌唱や演奏に取り入れてレベルアップさせる。そして、パート練習やお互いに聴き合い話し合う活動を通して、ハーモニー感覚を養わせる。また、合唱練習時や音楽鑑賞の態度、姿勢などの授業規律を守り、前向きに取り組めるようにする。
美術	S N Sが普及したことで、簡易にイメージやアイデアの参考資料が入手できるようになった。反面、安易に画像やアイデア、手軽で見栄えのする技法が入手できることで、他者の模倣に終始し、オリジナリティーが希薄になる傾向にある。	作品制作や鑑賞活動の初期段階においては、敢えてタブレットP Cの使用を制限し、アナログな手段での資料や情報収集を奨励し、物理・精神の両面を駆使して試行錯誤する時間を確保し、自分で気づき、考え、独自の答えを出す創造性を育む。
保健体育	令和5年度の体力テストの結果から、全国平均・東京都平均と比べると男女ともに「20mシャトルラン・持久走」が低い傾向にあることがわかった。	体力の向上を促すために、実技の授業では毎回、導入部分で持久力を高めるトレーニングを取り入れる。また、主運動を行う時間を確保することにより1単位時間の運動量を増やす。
技術・家庭	日常生活の変化に伴い、ものづくりの考え方も以前と違ってきている。1から作るものよりも、出来上がった製品の修理技術や手を加えて自分らしさが表現できる工夫などが課題となってきた。	衣服では補修技術を身につけたり、調理では栄養を考えた食品の選択を考えたり、住居では住みやすい環境の工夫を考えるなど。生活を豊かに過ごすための方策を実践で活かせる力を身につけさせたい。
外国語（英語）	音で覚えている生徒は多いが、発音している単語と文法的な意味が繋がらず書くことに課題がある。即興的な会話は正しい語順で発話できない場面が多い。自分自身のことを話すオープンエンドな質問を話すことが苦手な生徒が多い。	視覚的支援も行いながら発話と単語の一致、品詞などの文の構造を繰り返し学習する。帯活動を活用し即興的な会話の機会を多く設ける。A L Tとの交流などの時間も有効に活用し、自分のことを表現する時間・活動を多く設ける。